

伊達政宗公
誕生450年
シリーズ
第五回

仙台に華開く伊達な文化①

―薬師堂―

陸奥国分寺・薬師堂ガイドボランティア会



複数の時代を越えた史跡

政宗公は、泉州（大阪府）から工匠・駿河守宗次等を招き、陸奥国分寺薬師堂の再建を約3年で完成させました。

陸奥国分寺の入り口、南大門跡にそびえ立つ仁王門は、入母屋造りで茅葺の八脚門。金剛力士像にわらじを奉納すると足が強くなるという言い伝えがあります。境内に入ると、創建当時の門や回廊の礎石が並んでおり、昔の威容が容易に想像できます。重厚な佇まいを見せる鐘楼には、政宗公が鑄造させた梵鐘がかつて納められていました。

伽藍の中心となる薬師堂は、桃山建築の粋を凝らした単層入母屋・素木造りで、国の重要文化財に指定されています。内部の壁や扉には、彫刻や金箔等による極彩色の装飾が施され、厨子内には秘仏薬師如来像が安置されています。



▲参拝者によってつり下げられた仁王門のわらじ

薬師堂再建の由来

陸奥国分寺は、聖武天皇の命により全国に建立された国分寺の一つで、最北に位置しています。文治5年（1118年）、源頼朝と奥州平泉藤原氏との合戦の戦火により焼失しましたが、慶長12年（1607）年、伊達政宗公が陸奥国分寺跡に陸奥国分寺薬師堂を再建させました。その理由として、次のような一説があります。

文禄2年（1593年）の「文禄の役」で、豊臣秀吉から朝鮮出兵の命が下り、軍船を出そうとしたときのこと。陸奥国分寺の僧侶を名乗る人物が中国に渡るため乗船を申し出、政宗公は航海の無事を祈願させる代わりに願いを快諾しました。その僧侶は帰りの船が出る際にも現れ、政宗公とともに帰国。後に陸奥国分寺を訪れ、この僧侶のことを尋ねましたが、該当する者は見つかりませんでした。政宗公は、薬師如来が化身となり守護してくれたのではないかと考え、陸奥国分寺の加護への返礼として現在の薬師堂を再建させたといえます。

◆ガイドは随時受け付けています
陸奥国分寺跡を主体としたコースを解説しながら案内します。
陸奥国分寺・薬師堂ガイドボランティア会 ☎・FAX 244・5685

市内に現存する最古の木造建築の一つ、陸奥国分寺薬師堂。現地を訪れ、ボランティアガイドの皆さんに伊達政宗公の足跡を伺いました。



▲優美な袴腰が特徴的な鐘楼



▶(左から)ガイドの阿部さん、岩淵さん、佐藤さん

▲薬師堂は陸奥国分寺の講堂跡に建立されています

